

# ブーゲンビリア

～花言葉「情熱」～

2学年だより No. 05  
6月16日(木)

## 林間学校行ってきました！(前号の続き)

### 1日目

館山野鳥の森で行ったアドベンチャーラリーを終え、一行は1日目の宿泊地の岩井地区にやってきました。内房の美しい砂浜が広がる岩井海岸を間近に臨むこの岩井地区には、30を超える民宿やペンションといった宿泊施設が軒を連ね、関東近県から訪れる海水浴客や観光客の宿泊地としてはもちろん、臨海学校や大学のサークルといった学生団体にも「合宿地のメッカ」として盛んに利用されています。



バスを降りると、お世話になる民宿組合の方々が総出でお迎えをしてくれました。1日のアクティビティの疲れを癒すお風呂を頂いた後、夕飯はお刺身やサザエのつぼ焼きなど、地元で獲れた海産物のオンパレード。食べきれないほどのご馳走を頂いた後、岩井海岸に移動し、林間学校初日を締めくくるイベントであるキャンプファイヤーを行いました。点火式では、怪しい黒装束を身にまとい、仮面をした火の神が聖なる火を持って登場しました。各学級の代表である火の子(1組佐々木さん、2組佐藤さん、3組植木さん、4組根本さん)が分火を受け、誓いの言葉を高らかに宣言し、檜に火を灯しました。そして、レク部会進行のもと、ダンスやゲーム、じゃんけん列車などのレクに興じました。会の最後には、この林間学校の期間中に誕生日を迎える3組砂川さん、4組市村さんが紹介され、皆でハッピーバースデーを歌い祝福するというサプライズ演出もありました。



夕焼けに染まる美しい岩井海岸を背景に、幻想的に燃え盛る炎を囲み、2学年全員でジンギスカンを踊り、レクで盛り上がり、大いに歌い、叫び、笑い、感動を共有したあの瞬間は、まさに忘れられない思い出の青春の1ページとして、皆の胸に刻まれたことでしょう。

キャンプファイヤーを終え、解散するまさにその直前、突如レク部会の1組永吉さん、3組豊田さんが、身も凍るような極上の怪談話を披露。キャンプファイヤーの楽しかった雰囲気が一変。檜の炎も消え、夜の闇が迫るビーチは恐怖と悲鳴と泣き声に包まれました！皆、無事に宿舎に帰ることはできたのでしょうか…。



### 2日目

2日目も朝から見事な快晴に包まれました。岩井海岸には太陽がまぶしく照りつけ、遥か沖には富士山も望むことができました。午前中は、内房の伝統漁法である「地引き網」を体験しました。総延長200mを超す大網を全員で引っ張り、メジナ、イシダイ、シマアジ、ハゼなど房総を代表する魚たちを獲ることができました。昼食には、早速メジナの刺身や唐揚げが並びました。まさに地産地消。地域循環型のサステナブルな社会ですね。



お世話になった民宿の方々にお礼とお別れの挨拶を告げ、午後は、酪農、農作業、海釣り、ビーチコーミングの4つの体験学習班に分かれ、それぞれアクティビティを通して房総の自然を学ぶことができました。

2日目の宿泊地は鴨川グランドホテル。エントランスやロビーはもちろん、部屋も浴場も食事も超豪華。林間学校であることを忘れてしまうような、贅沢な時間を味わいました。



夕食後はリーダー会議。実行委員、各部長、部長が集い、活動の反省を行いました。「集合時間が守れなかった」、「リーダーの呼びかけが遅かった」、「ホテルを利用するマナーは守れているか」、「全体的にしおりの読み込みが甘い」、「お世話になった方にしっかり挨拶ができた」など、自分たちで気づいた課題や成果について意見を出し合い、明日に向けての改善策を話し合いました。疲れの溜まる2日目の夜でしたが、リーダーたちの自治活動に向き合う姿勢や目的意識の高さは大変立派でした。

### 最終日

最終日は小雨が降りしきる中の早朝散歩から始まりました。あいにくの空模様でしたが外房の太平洋を望む海岸の澄んだ空気を、早起きした生徒だけで満喫しました。そんな中、早朝トレーニングと称し、砂浜ダッシュを始める生徒もいました。

最終訪問先は鴨川シーワールド。班別に分かれ、大迫力のシャチやイルカのショー、名物白イルカのバルーガ、多くの海洋生物を見学して巡ることができました。

ビュッフェスタイルの昼食を食べ、帰校の途に着きました。バスの中では、心地よい疲労感とたくさんの思い出に包まれ、皆そろってスヤスヤでしたね。



(次号は生徒の感想を掲載)